

大学と校友会と私と

本籍地 広島県・現住所 奈良県、今から 52 年前（S 36 年）一年間の東京（大井町・中野）での浪人生活に終止符を打ち入学したのが、吾が明治大学でありました。

世相は、「安保闘争」が終わった翌年で池田内閣が「所得倍増」を掲げ、東京オリンピック開催（S 39 年）も決定、高度成長の始まりの頃でした。地方から金の卵も東京へと云う時代でした。交通アクセスは広島～東京間 急行「安芸」号で所要 18 時間でした。東海道新幹線開業（S 39 年）と同時に山陽本線電化も進み 急行「宮島」号で所要 11 時間 30 分となり隔世の感となりました。

入学時、東京は浪人時代を過ごしましたので、戸惑いはありませんでしたが、クラスに女子学生（学内でも少ない）が居ないため味気なく、現在とは比較のできない男性社会でした。（女子学生とのグループ交際は宝くじに当選するような至難の確率でした。）幸いに、和泉校舎は白亜の校舎で校内は広く、それに引き替え、本校駿河台は丸いドーム屋根が印象的で、周りの古い建物は随所にその良さがあり、歴史を感じられました。しかし学生の多さとその活気にはびっくり、これぞ大学に通っているという雰囲気がありました。すぐにクラスメートでグループも出来上がり、学生生活もスタートを切ることが出来ました。

大学生活は、まあまあ真面目に講義には出席（四年間の成績は人並み）、まずは、明大通りでのマージャンマスター（駿河台では迷人に昇格）、新宿歌舞伎町純喫茶寄り道、神宮球場にて野球応援（S 36 年優勝在学中これ一回のみ、奈良校友・田中武氏 野球部キャプテンは S 37 年入学）、東京オリンピック開催（S 39 年）、駒沢野球場にてサッカー観戦（全日本に明治大学 杉山選手出場）、四年間、普通の学生でしたが無事卒業（S 40 年 千駄ヶ谷東京都体育館にて、来賓 三木武夫総理）、東京にて就職、結婚初任給 20,000 円（S 40～S 43）、S 43 年大阪の親戚の会社へ転職。（奈良県へ転宅現在に至る）

その後、明治大学出身者であったことが、人との出会い、ご縁が人生に於いて大いに役に立ったことに感謝しております。

校友会との関わりは、S 53 年頃、奈良校友の亀井和夫氏と大阪ロイヤルホテルでの大阪府支部の集いに参加したのが初めです。

奈良県支部へは S 54 年頃 菊池支部長時代に総会初参加（校友 亀井和夫氏と）

以後、継続して板橋知義支部長（H 3 年～H 5 年）・山本将雄支部長（H 5 年～H 9 年）校友として出席。H 8 年幹事拝命

城田全康支部長（H 9 年～H 13 年）時代の H 12 年～H 17 年副支部長拝命

H 10 年第一回マンドリン演奏会（橿原文化会館）

塩川浩一支部長（H 13 年～H 17 年）

H 15 年第二回マンドリン演奏会（なら 100 年会館）

H 17 年仁井史朗 支部長拝命（H 17 年～H 23 年）

H 19 年第三回マンドリン演奏会（なら 100 年会館）

H 22 第四回マンドリン演奏会（なら 100 年会館）

このように微力ながら大過なく、校友活動が送れましたこと、偏に奈良県支部校友の皆様のご指導、ご支援、ご協力の賜物と感謝しております。ありがとうございました。

最後に、明治大学の建学精神は“権利自由・独立自治”はもとより明治はひとつ 明治大学・校友会・父母会 三位一体となり、納谷廣美前学長提唱の強い「個」を育成する大学 “社会の中で自らの使命を自覚し、行動し、存在感を現すことのできる人の育成を目指す” をスローガンに掲げて、日々成長を遂げています。

今後とも、微力ではありますが母校賛助、校友会の親睦活動に尽力して参りたいと思います。

明治大学校友会奈良県支部

顧問 仁井史朗

昭和40年（1965年）政経学部卒業